

システム英単語・連想記憶術 1686～

動詞

□□ 1686

proclaim 「付録0もあり得ると宣言する」「プロ(なら)クレームはいつでもOKと宣言しろ」

[5][prəkleim プラクレイム]

幹「claim=叫ぶ」

「pro=前」+「claim=叫ぶ」= proclaim

→人前で叫ぶ=宣言する・公布する

「ex=外」+「claim=叫ぶ」= exclaim → exclamation mark = !

→外に向かって叫ぶ=叫ぶ・大声で言う

「dis=否」+「claim=叫ぶ」= disclaim

→違うんだと叫ぶ=否認する・否定する・拒否する

「de=強調」+「claim=叫ぶ」= declaim

→言いたいことを強調して叫ぶ=演説する

□□ 1687

smash 「強烈なスマッシュで敵を粉々に砕く」

[4][smæʃ スマシュ]

□□ 1688

mourn 「喪！うんと故人を悼む」

[5][mó:rn モーン]

□□ 1689

summon 「左門豊作が警察を呼ぶ」

[5][sʌmən サマン]

説左門豊作は「巨人の星」で飛雄馬が高校時代より縁を持った熊本出身の巨漢スラッガー。幼い妹弟達を育てる為に野球にけるハングリーな精神が強さの秘訣。なぜか魔球の最初の餌食になる事が多い。

□□ 1690

shatter 「店のシャッターを粉々にする」

[6][ʃætər シャタ]

□□ 1691

linger 「涼やかな風鈴が記憶に残る」

[7][lɪŋgər リンガ]

□□ 1692

lament 「ラーメンと水だけの食生活を嘆く」

[7][ləmənt ラメント]

□□ 1693

endow 「遠藤君は才能に恵まれる」

[8][ɪndəu インダウ]

□□ 1694

rejoice 「理事(が)用意する宴席を喜ぶ」

[4][rɪdʒɔɪs リジョイス]

幹「joyce=joy=喜び」

□□ 1695

whip 「ホイップクリームをむち打つ」

[4][hwɪp ウィップ]

説ホイップクリームは英語で whipped cream。「泡を立てる」のも「鞭で打つ」のもやっていることは同じだということです。

□□ 1696

slap 「落胆するラップに平手打ち」

[5][slæp スラップ]

□□ 1697

contend 「君の観点どうも変だと主張する」

[7][kɒnténd カンテンド]

□□ 1698

swear 「末は博士か大臣だと誓う」

[3][swéər スウェア]

□□ 1699

discern 「うちの爺さんを識別する」

[8][dɪsɜ:rn ディサーン]

□□ 1700

degrade

「グレード(grad)を下げる(de)」

[9][dɪgréid ディグレイド]

頭「de=下」

「de=下」+「grade=等級」= degrade

→等級を下げる=悪化させる

「de=下」+「press=ギョツ」= depress

→下に向かってギョツ=押し下げる、落胆させる

- 1701
elect 「異例、苦闘の総選挙で議員を選出する」
 [3][ilékkt イレクト]
 説 間違って erect と書くと「勃起する」の意味になるので注意！
- 1702
testify 「テスト遅配でセンター職員が証言する」
 [7][téstəfai テスタファイ]
- 1703
spur 「スパッと解決へと俺を駆り立てる」
 [7][spó:r スパー]
- 1704
roam 「日雇い労務者、仕事にあぶれてさまよう」
 [6][róum ロウム]
- 1705
chew 「チューインガムをかむ」
 [4][tʃú: チュー]
 説 チューインガム(chewing gum)は「くちやくちやかむゴムのようなもの」の意味。
- 1706
lure 「ルアーで魚を誘い込む」
 [8][ljúər リュア]
 説 ルアー (lure) はルアーフィッシングでの釣りに使用する道具のひとつで、針が付いていて、動きや色、匂い、味などで、直接魚を誘う物の事を言う。日本語では疑似餌と訳される事が多いが、魚は餌としてルアーに食いついているだけではないという見解もあり、一概に訳す事はできない。
- 1707
defy 「相手の捨てた字牌を無視する」、「一、九、字牌で満貫に挑む」、「字牌は切らずに親のダブリーに反抗する」
 [6][difái ディファイ]
 説 麻雀知らなかったら、この記憶術は分からないかもね。他動詞 defy の目的語には反抗する対象がきて、「権威」、「重方」、「世の趨勢や流れ」などがくる。
- 1708
stroll 「ストロー売る店探してうろつく」
 [8][stróul ストロウル]
- 1709
dispense 「J I S (規格は)変っす！「規格」なしで済ますべき！」
 [8][dispéns ディスペンス]
 説 J I S とは Japanese Industrial Standards の略語で、「規格」に当たるのが Standards なのだから、J I S 規格とは「日本工業規格規格」になってしまい変っす！
- 1710
reconcile 「離婚、去る前に2人を和解させる」
 [7][rékənsail レカンサイル]
- 1711
blur 「ぶらぶらしてた理由をぼかす」
 [8][blá:r ブラー]
- 1712
soothe 「心理学者は鈴を鳴らして人をなだめる」
 [7][sú:ð スース]
- 1713
impair 「データの隠蔽や改ざんで職員の士気を低下させる東京電力」
 [9][impéər インペア]
- 1714
comply 「このプレイヤーはJ I S規格に従う」
 [8][kəmplái コンプライ]
 説 コンプライアンス(compliance)は「法令遵守」のことで頻出。最近では企業の不祥事に対する社会の目が厳しく、1人の社員の軽率な行動が企業の信用失墜につながることもあるので、社員に「コンプライアンス」を徹底するように指導している。
- 1715
pierce 「ピアスするのに耳に穴をあける」
 [5][piərs ピアス]
- 1716
stumble 「イスタンブールでつまずく」
 [5][stámbl スタンプル]
- 1717
hinder 「ブランコの貧打がドラゴンズの勝利を妨げる」
 [7][hində̀r ヒンダ]
- 1718
mock 「マックの不味さをあざ笑う」「黙殺して人をバカにする」
 [6][mák マック]

□□ 1719

embody 「トレーニングでええボディを具現する」
[9][imbádi インバディ]

□□ 1720

insert 「インサート・キーで文字を差し込む」
[6][insá:rt インサート]

□□ 1721

stalker 「ストーカー(stalker)が美女に忍び寄る」
[6][stók ストック]
説 stalk は他動詞で「人をこっそりつけ回す」の意味。

□□ 1722

clarify 「クララ(は)はい!と手をあげ、ハイジに賛成の立場を明確にする」
[7][klærifai クラリアファイ]

□□ 1723

applaud 「あっ! プロだ、と拍手する」、「アップロードが上手く行き拍手する」
[6][əplɔ:d アプロード]

□□ 1724

inflict 「教育委員、不利(を)苦闘隠蔽し、PTAと対立する」
[6][inflíkt インフリクト]

説 大津市皇子山中学のいじめ自殺事件で、警察と教育委員会は結託して、教育委員は不利な情報を隠蔽し、警察は被害届を3度も受け取ろうとはしなかった。なんでもいじめをやった生徒の祖父が警察OBだったとか。

幹 「flict=打」
「in=中」 + 「flict=打」 = inflict
→ 打撃を加えて中に被害を負わせる = 加える、負わせる
「con=共」 + 「flict=打」 = conflict
→ 互いに殴り合う = 闘争、衝突
「af=at=方向」 + 「flict=打」 = afflict
→ ~に精神的打撃を加える = ~を苦しめる、悩ます

□□ 1725

merge 「サムソンがシャープを吸収・合併するなんてマジっすか?!」
[8][mé:rdʒ マージ]

□□ 1726

reckon 「靈魂の数を数え霊場だと考える」
[7][rékən レカン]

□□ 1727

undone 「これは案だ!未完成のものだ」
[9][Andán アンダン]

説 undo は「元に戻す」とか「取り消す」の意味の他動詞。その過去分詞形が undone で、「取り消した」 = 「まだやっていない」 = 「未完成の」と意味が広がった。

□□ 1728

poke 「フォークでポークソテーを突く」
[9][póuk ポウク]

□□ 1729

tumble 「田んぼに落ちる」
[7][támbl タンボー]

□□ 1730

adhere 「あ! どひゃ~! うんこが付着する」
[8][adhíər アドヒヤー]

説 「引つつく」から「執着する」、「固執する」と意味が広がる。

幹 「here=粘着」
「ad=at=方向」 + 「here=粘着」 = adhere
→ そこに引つつく 名 付着、固執 形 adherent=付着した、粘着性の、関係した
「co=共」 + 「here=粘着」 = cohere
→ 共に引つつく = 密着する 名 coherence=密着 形 coherent=密着した
「in=中」 + 「here」 = inhere
→ 身体の中にくっついている = 生来備わる 名 inherence=生得 形 inherent=生まれつきの

□□ 1731

compile 「カンパ要る!と金を集める」
[8][kəmpáil カンパイル]

説 資料などを集め、それをまとめ、編集する、の3つの意味を覚えておこう。

□□ 1732

wither 「いざと言うときに勇気しぼむ」
[7][wíðər ウィザ]

□□ 1733

stun 「スタンガン(stun gun)で彼をびっくりさせる」
[9][stán スタン]

□□ 1734

choke 「チョーク(chalk)でのどが詰まる(choke)」
[6][tʃóuk チョウク]

□□ 1735
deteriorate 「盗みなら住民自治エリア(が)いいと、治安が悪化する」
[9][ditiəriəreit ディティエリアレイト]

□□ 1736
evade 「英米どちらも責任をのがれる」
[9][ivéid イヴェイド]
説「vade=行く」
「e=ex=外」+「vade=行く」=evade
→責任の及ぶ範囲外に行く=避ける、逃れる
「in=中」+「vade=行く」=invade
→入ってゆく=侵入する、侵略する 名 invader=侵入者、侵略者、インベーター
「per=完全」+「vade=行く」=pervade
→完全に行き渡る=普及する

□□ 1737
murmur 「ママはいつも小声でつぶやく」
[5][mó:rmər マーマ]

□□ 1738
console 「心にもない感想を言ってなぐさめる」
[7][kənsóul カンソウル]

□□ 1739
duplicate 「十振り返って、十真似る中国」
[9][dú:plikeit デュープリケイト]
説「du=duo=2」
「du=2」+「plic=折る」+「ate=形容詞、動詞語尾」=duplicate
→2つに折り重ねる=2重にする、2倍にする、複製する
「duo=2」+「decimal=10進法」=duodecimal
→2進法
「du=2」+「-al=形容詞語尾」=dual
→2つの=2重の、2元的な
「du=2」+「-et=人」=duet
→2人でやる=2部合唱、デュエット

□□ 1740
divert 「だいぶ後で注意をそらす」
[7][divó:rt ディバート]

□□ 1741
slaughter 「人の財布を掏(す)ろうとは、虐殺するぞ!」
[8][sló:tər スローター]

□□ 1742
reap 「立派な仕事を手に入れる」
[6][ri:p リープ]
説 reapは「作物を収穫する」が原義。そこから、「利益を手に入れる」の意味が派生した。You must sow before you can reap. (まかぬ種は生えぬ=原因もなく結果は生じない)のことわざがある。

□□ 1743
affirm 「あっハム!とピラフの具を判断する」
[7][əfó:rm アファーム]
説「firm=堅い」
「con=共」+「firm=固い」=confirm
→一緒に心を固める=確認する
「in=im=否」+「firm=固い」=infirm
→固くない=虚弱な
「af=at=方向」+「firm=固い」=affirm
→相手に対して確信を持って発言する=断言する

□□ 1744
knit 「ニット帽を編む」
[3][nit ニット]

□□ 1745
ponder 「パンダの飼育法を熟考する」
[9][pándər パンダ]

□□ 1746
embark 「10万円ばかりの金で株に乗り出す」
[7][embá:rk エンパーク]

□□ 1747
vow 「お宝をうばうと誓うルパン」
[5][váu バウ]

□□ 1748

foresee 「星を見て未来を予知する」

[7][fɔ:rsi: フォーシー]

頭 「fore=前」 フォア・ハンド、バック・ハンドの fore。

「fore=前」 + 「see=見る」 = foresee

→先に起こることを見る=予見する

「fore=前」 + 「ward=方向」 = forward

→前の方=前方へ

「fore=前」 + 「head=頭」 = forehead

→頭の前の方=ひたい、前額部

□□ 1749

adore 「水森垂土を崇拝する」

[7][ədɔ:r アドー]

□□ 1750

yearn 「雨が止んで!と切望する」

[8][jɛ:rn ヤーン]

□□ 1751

undermine 「民主案ダメになるように党を弱体化させる」

[9][ʌndərmáin アンダマイン]

□□ 1752

suck 「咲く花から蜜を吸う」

[3][sʌk サック]

説 映画を見てると良く出てくる俗語に「dick-sucker」というのがある。これは文字通り「チンチンを吸う人」。それを男に向かって言うから「下劣な奴」とか「ゲズ野郎」くらいの意味になる。

□□ 1753

pledge 「play時には真剣にやると誓う」 =vow

[6][plédʒ プレッチ]

□□ 1754

intrude 「AKB全員撮るぞと楽屋に立ち入る」

[7][intrú:d イントウルード]

□□ 1755

sue 「ビビアン・スーを訴える」

[5][sjú: シュー]

□□ 1756

rot 「どろっと腐る」

[7][rát ラト]

□□ 1757

extinguish 「以下、捨てんギッシリと詰まった思い出を消す」

[8][ɪkstɪŋgwɪʃ イクステイングイッシュ]

幹 「stinguish=する」

「ex=外」 + 「stinguish=する」 = extinguish

→外に出してしまう=消し去る

「dis=離」 + 「stinguish=する」 = distinguish

→バラバラにする=区別する、見分ける

□□ 1758

perplex 「石川遼のパープレイ、クソすぎて困惑させる」

[7][pɜ:pléks パープレクス]

幹 「plex=複雑に入り組む」

「per=perfect=完全」 + 「plex=入り組む」 = perplex

→完全に複雑化する=困惑させる

「com=共」 + 「plex=複雑に入り組む」 = complex

→色々なモノが共に入り組む=複合の、強迫観念

□□ 1759

curb 「得意のカーブで阪神の連勝を阻止する」

[9][kɜ:rb カーブ]

□□ 1760

withstand 「博打で伊豆(の田畑)擦ったんだけど耐える」

[7][wɪðstænd ウィズスタンド]

頭 「with=逆らう」

「with=逆」 + 「stand=立つ」 = withstand

→足を踏ん張って逆らう=抵抗する、堪え忍ぶ

「with=逆」 + 「draw=引く」 = withdraw

→出したものを逆に引っ込める=取り消す、引退する、撤退する

「with=逆」 + 「hold=握る」 = withhold

→引き戻す=差し控える

□□ 1761
expel 「幹部を生かし、ペーパーを追放するシャープ」

[8][ɪkspél イクスベル]

幹「pel=追う」

「ex=外」+「pel=追う」= expel

→追い出す=追放する、駆逐する

「com=強調」+「pel=追う」= compel

→徹底して追い込む=強制する、強いる

「im=in=中」+「pel=追う」= impel

→追い込む=推進する、押し進める

「pro=前」+「pel=追う」= propel

→押し出す=推進する [名] propeller=プロペラ

「re=後」+「pel=追う」= repel

→追い返す=撃退する

□□ 1762

recite 「リサイタルで歌う曲を暗唱する」

[7][risáit リサイト]

□□ 1763

glitter 「義理と人情が光り輝く高倉健」

[6][glítər グリター]

説「gl-」は「光」の意味の語幹。だから、「glare ギラギラ光る」「glimmer ちらちら光る」「glisten キラキラ光る」

「glory 栄光」「gloss 光沢」「glow 輝く」のように、光に関連する語彙が多い。

□□ 1764

plead 「ラフ・プレイどうしてもやりたくないと嘆願する」

[5][pli:d プリード]

説 rough play は「荒っぽいプレイ」のこと。サッカーでは相手を倒すことを目的として、ボールではなくて相手に向かってスライディングするようなプレイを言います。

□□ 1765

contemplate 「簡単プレイといえども戦略を考える」

[7][kántəmpleit カンタンプレイト]

□□ 1766

discharge 「満を持し、些事で放出する」

[5][distʃɑ:rdʒ ディスチャージ]

説 charge は「車に荷物を載せる」が原義で、そこから「充電する」とか「装填する」のいみが派生する。「エネルギーをチャージする」の様に日本語化している。「dis-」は「否定・反対」の接頭語だから、discharge で「車から荷物を下ろす」、「放電する」の意味になる。

□□ 1767

preach 「ブリーチで髪を染めるなど説教する」

[4][pri:tʃ プリーチ]

説 「ブリーチ bleach」は「漂白」の意味。黒い髪の毛は先ず色を抜かなければ色が染められないのだけれど、「ブリーチング bleaching=脱色」は髪を傷める原因になるので、ハゲたくなければ止めた方がよい。

□□ 1768

rattle 「ガラガラ音を立ててヘビが笑っとる」

[4][rætl ラトル]

説 rattle + snake =ガラガラヘビ・rattlesnake。赤ちゃんをあやすためのおもちゃ、ガラガラも rattle。「ガラガラ」「ガタガタ」「ガタゴト」「ダダダダ」「ペチャクチャ」「コンコン」など色んな擬音に用いることができる。

□□ 1769

retrieve 「肉はシリとリブだ!と言って取ってくる陳健一」

[9][ritri:v リトリーヴラトル]

□□ 1770

shrug 「阿修羅が肩をすくめる」

[7][ʃrʌg シュラグ]

□□ 1771

evoke 「いい僕のいけない記憶を呼び起こす」

[9][invóuk イヴォウク]

幹「voke=呼ぶ」

「e=ex=外」+「voke=呼ぶ」= evoke

→頭の中のを外に呼び出す=喚起する、呼び覚ます、検索する

「in=中」+「voke=呼ぶ」= invoke

→神の力を呼び込む=祈念する、祈る、invoke=evoke=呼び覚ます、思い起こさせる

「pro=前」+「voke=呼ぶ」= provoke

→相手を自分の前に呼び出す=挑発する、怒らせる

□□ 1772

haunt 「幽霊がほんとに現れて僕を悩ます」

[6][há:nt ホーント]

□□ 1773

disguise 「赤福餅ですが、いずれはバレる消費期限の偽装を隠す」←古い!

[5][disgáiz ディスガイズ]

□□ 1774

flatter 「好きな女に触れたいため、おだてる」

[5][flætər フラタ]

名詞

□□ 1775

prose 「君のは散文的解釈だ！誰が評論のプロぞや！」「散文 **prose** と韻文（詩） **poetry**」

[4][próuz プロウズ]

説 詩や韻文のように韻律や句法に則って書かれたものじゃなく、小説や評論のように何の句法にもとらわれずに書かれた文章。「散文的」と言うと、味気なくて面白みのない評論や解釈を言う言葉。

□□ 1776

germ 「イチゴジャムに繁殖する細菌」

[9][dʒɔ:rm ジャーム]

□□ 1777

thermometer 「さあ！もめた小選挙区定数問題！上がる国会の温度計」←長い！

[5][θərmámətər サーマメーター]

説 「0増5減」とは小選挙区制の議員定数の増減を言っていて、民主党が提案した選挙制度改革法案が山梨県、福井県、徳島県、高知県、佐賀県の5県でそれぞれ議員定数（定員）を1人ずつ減らし、他府県で増やさないこと。有権者数の少ない選挙区は当選するのに必要な得票数が少なくて済むので、有権者数が多い選挙区に比べて「1票の格差」が大きくなるので、議員定数を減らすことで格差の是正を図ろうとしている。でも、どの党も選挙戦が不利になるのでなかなかそれに踏み切れない。

□□ 1778

province 「南仏の**プロ**バンス州 Provence province」

[4][právinz プラヴィンス]

□□ 1779

masterpiece 「まあ！スター必須の傑作ドラマ」

[6][mæstəpɪ:s マスターピース]

説 「スター俳優なら必ず出ているドラマ」の意味。最近のドラマは、ヒーローやヒロインだけでなく、脇役も同じ人間がどのドラマにも出ていることが多い。渡辺いっけいは同一クールで異なる4つのドラマ全部に出演していた。

□□ 1780

revenue 「利便言うと、求められる高収入」

[6][révənju: レバニュー]

説 物件の立地や利便性が高ければ高いほど、家賃も高いので収入が高くないと借りられない。最近ではドラマの影響もあって、シェアハウスが人気らしい。これだと安い賃料で人気エリアで暮らせる。

□□ 1781

riot 「こいつら嫌！と反日暴動」

[7][raɪət ライアット]

反日デモが中国共産党と公安、軍部によって仕掛けられた官製暴動であることが判明し、中国国民が共産党一党支配体制に対して抱いている怒りをどうやって緩和して、目を外に向けさせるのかに中国共産党がかなり手を焼いているのが見て取れる。

□□ 1782

breakthrough 「既存の壁を壊して(break)突き進む(through)飛躍的進歩」

[8][bréikθru: ブレイクスルー]

□□ 1783

apparatus 「アッパレだす！その装置は」

[5][æpəˈrætəs アパラタス]

□□ 1784

fuss 「彼女と割り勘定、端数で大騒ぎ」

[6][fás ファス]

□□ 1785

deficiency 「自費(で)支援し、資金が欠乏」

[7][dɪfɪʃənsi ディフィシアンシ]

□□ 1786

heir 「絵や骨董の相続人」

[5][éər エア]

□□ 1787

equator 「行方たしか赤道方面」

[7][ɪkwéɪtər イクウェイター]

説 「equ = 等」

「equate = 等しいとする」 + 「-or = -er = するもの」 = equator

→地球を等分するもの = 赤道

「equ = 等」 + 「ate = 動詞語尾」 = equate

→等しいとする = 一致する、同一であると見なす

「equate = 一致する」 + 「-tion = 名詞語尾」 = equation

→左辺と右辺が一致すること = 方程式

「equ = 等」 + 「-al = 形容詞語尾」 = equal

→等しい、イコール

「equ = 等」 + 「val = value = 価値」 = equivalent

→等しい価値 = 等価のもの、相当するもの、同意義のもの

□□ 1788
petroleum 「ベツ！徒勞！利(益)は無の石油採掘」
[9][pitróuliəm ピトウロウリアム]
幹「petro=石」
「petro=石」＋「oleum=油」＝petroleum
→石油
「petro=石」＋「ify=動詞化」＝petrify
→石化する＝動けなくする

□□ 1789
certificate 「サチ！飛型と距離から指導員の証明書」
[6][sərtifikit サーテイフィクト]
説 certain (確かな) から、certify (確認する＝証明する)、certificate (証明書)、certification (証明) が派生した。

□□ 1790
vapor 「別府は温泉の蒸気でいっぱい」
[7][véipər ベイパ]

□□ 1791
probe 「地球が減ぶ前に火星探査(機)」
[6][próub プロウブ]

□□ 1792
doctrine 「アダムが知った毒とリンゴの教義」
[7][dáktrin ダクトリン]

□□ 1793
scorn 「好かん！と軽蔑」
[6][skó:rn スコーン]

□□ 1794
prophet 「プロ筆頭にした予言者たち」
[7][práfit フラフィット]

□□ 1795
breathe 「そよ風(breeze)を呼吸する(breathe)」
[2][brí:ð ブリーズ]
説似た単語と一緒に覚える。発音は breeze[brí:z]と breathe[brí:ð]。

□□ 1796
pavement 「歩道で銭形警部、面と向かうルパン」
[4][péivmənt ペイヴメント]

□□ 1797
ornament 「おお！何万とするクリスマスの飾り」
[5][ó:rnəmənt オーナメント]

□□ 1798
spouse 「スーパーうぜえ！配偶者」
[8][spáus スパウス]

□□ 1799
wrinkle 「ドモホルンリンクルでシワだらけ」
[6][rɪŋkl リンクル]
説 再春館製薬所の基礎化粧品、「ドモホルンリンクル」は、使えば青春が再び訪れたように肌が生き生きすると言いたいのだろうが、リンクル(wrinkle)は「シワ」の意味なのだから、使ったらシワだらけになりそうな気がする変なネーミングだ。rename した方が良いのでは？

□□ 1800
queue 「9列」
[6][kjú: キュー]

□□ 1801
stake 「金をドブに捨て(に)行く様な競馬のレースにたくさんの賭け金」
[4][stéik ステイク]
説 お肉のステーキは「steak」。老人用のステッキは「stick」、つまり木の棒なわけです。ま、普通は stick とは言わずに cane と言います。

□□ 1802
ambassador 「あの婆娑羅をやりまくる仏大使」
[5][æmbəsədər アンバサダ]

□□ 1803
jury 「ジュリーも陪審員」←沢田健二は知らんワナ！？
[6][dʒjúəri ジュアリ]

□□ 1804
dismay 「病名聞いて辞す名医に落胆」
[7][disméi ディスメイ]

□□ 1805
lump 「ランプ(lamp)で殴って頭にコブ(lump)」
[5][lámp ランプ]

- 1806
lottery 「ロータリークラブ (Rotary Club) が売る宝くじ (lottery)」
 [7][lɒtəri ラタリ]
- 1807
outbreak 「名詞は outbreak、動詞は break out」
 [6][aʊtbreɪk アウトブレイク]
 説 動詞表現をひっくり返すと名詞になることがある。例えば、動詞は see the sights で名詞は sightseeing。
- 1808
feat 「足(feet)で偉業(feat)」
 [9][fi:t フィート]
- 1809
temperament 「テンパる！面と向かうと現る性質」
 [8][tɛmpərəmənt テンペラメント]
 説 聴牌 (テンパイ) は麻雀用語で、あと1つで上がれる状態。それに「一る」をつけて動詞化したのが「テンパる」。常人ならドキドキして焦るので、「一杯いっぱいの状態になる」ことを言うようになった。
- 1810
chill 「寒気が南下し桜散る」
 [4][tʃɪl チル]
- 1811
deficit 「赤字で必死となる」
 [6][dɛfɪsɪt デフィシット]
- 1812
predecessor 「プレーで切磋琢磨していた前任者」
 [7][prɛdɪsɛsəɹ プレディセサ]
 説 練習せずに、実際に試合をやってみて(play)自分を磨くマラソンランナーが、公務員ランナーの川内優輝。普通はレース間隔を3か月以上はあけるのだが、彼は練習はしない代わりに実践で自分を鍛えるらしく、例えばエジプト国際マラソンの翌日に埼玉駅伝に出場している。さらに彼は優秀な選手に国が出す強化費500万円を辞退したそう。他のマラソン選手は彼が憎たらくて仕方がないだろうね。
- 1813
entity 「就職は縁(故)！父の存在」
 [8][ɛntəti エンタティ]
- 1814
hospitality 「手厚いもてなし(hospitality)の病院(hospital)」
 [6][hɒspɪtæləti ハスピタリティ]
 説 hospital は16世紀までは旅行者向けの「宿泊所」の意味だった。だから、hospital (宿泊所)、hospitable (もてなしのいい)、hospitality (もてなし) は同語源。
- 1815
mortality 「高圧線にもたれて死亡」
 [7][mɔ:rtæləti モータリティ]
 説 「もう取る歳で死すべき運命のおっさん」は形 mortal、「妹は不死身の女」はその反意語の形 immortal。
- 1816
narrative 「そんな話は奈良(の)恥部」
 [6][nærətɪv ナラティヴ]
- 1817
segment 「早く面とかが彼の嫌いな部分」
 [8][sɛgmənt セグメント]
- 1818
catastrophe 「闘莉王が相手を勝たす！トロフィー持ってかれる大災難」
 [7][kətæstrəfi カタストラフィ]
 説 大分前のワールドカップ強化試合のこと。対コートジボワール戦で闘莉王は2試合連続のオウン・ゴール！もう、本当にあり得ない光景でした。
- 1819
monarch 「もう泣く！敗戦国の君主」
 [5][mɒnɑ:k マナーク]
- 1820
cradle 「オタマ(ladle)でできた揺りかご(cradle)」
 [5][drɛɪdl クレイドル]
 説 似た単語と一緒に覚えよう！ ladle は料理に使う「オタマ」、cradle は「揺りかご」。ま、全然関係ないけどね。
- 1821
coward 「講和だ！と戦意喪失の臆病者」
 [4][kaʊəd カウアード]
 説 講和条約とは、戦争を終わらせるための平和条約で、戦争の終結を宣言と講和条件とが説かれている。

□□ 1822

cosmos 「コスモス(Cosmos)の美しさは、調和の取れた秩序ある宇宙(cosmos)の美しさ」

[4][kɑːzməs カズマス]

説 ギリシャ語の Cosmos は「秩序ある美しさ」の意味で、花も宇宙も整然と秩序ある美しさがあるところから、両方とも cosmos と名付けられてる。同じ「宇宙」の意味の universe も、「uni=1つ」+「verse=向く」=「同じ1つの方向を向いているもの」で、意味的には同じ内容。あ、「verse」をまとめておきます。

幹 「verse=方向」

「uni=1つ」+「verse=方向」= universe
→同じ1つの方向を向いているもの=万物が1つにまとまっている様子=宇宙
「re=逆」+「verse=方向」= reverse
→逆に向ける=逆にする、裏返す
「contro=反対」+「versy=方向」= controversy
→反対意見を言う=論争
「di=分離」+「verse=方向」= diverse
→別々の方向を向く=性質を事にする **名** diversity=生物多様性

□□ 1823

aisle 「通路に鈴木愛理」

[5][áil アイル]

説 これは藪下にはさっぱり分からないのですが、℃-ute というグループのメンバーとして紅白にも出たそうです。あ、island と同じで、aisle も"s"は黙字で発音しません。often や night の"t"や"gh"も黙字ですね。この様に英語は綴りと発音が上手く一致していない言葉なのです。こちら辺がハイブリッド言語のつらいところでしょうね。

□□ 1824

headquarters 「本部のヘッド(も)買うたマルちゃん正麺」

[5][kɛdkwɔːrtəz ヘドクウォータース]

□□ 1825

toll 「ゲートを通る度に払う通行料」

[7][tɔʊl トウル]

□□ 1826

transaction 「宅地建物取引主任者の資格なんか取らん！雑魚(資格)でしょ！」

[6][trænsækʃən トランサクショーン]

説 藪下は宅建の免許が雑魚資格だとは思いませんがね。それにしても、「雑魚資格」という言い方がスゴイね。

幹 「trans=移す」

「trans=移」+「act=行為」= transact
→物を左から右へ移す=取引する
「trans=移」+「port=運ぶ」= transport
→商品の場所を移す=輸送する
「trans=移」+「fer=運ぶ」= transfer
→運んで移動する=移す・移転する
「trans=移」+「mit=ラテン語 mittere=伝」= transmit
→トランスミッションはエンジンの動力を車輪に伝えるもの→伝達
「trans=移」+「late=ラテン語 latus」= translate
→言葉を日本語から英語に移し替える→翻訳する
「trans=移」+「form=形」= transform
→形を移し変える→変形する
「trans=移」+「parent=見る」= transparent
→つき通して向こうが見える→透明な

□□ 1827

syndrome 「青い鳥シンドロームは青い鳥症候群」

[9][sɪndroum シンドロウム]

説 「自分探し」が成功しないのは現在の自分を否定する行為だから。自己否定の上には何も積み上がらないということ。今の自分は本当の自分じゃないと考えて、夢ばかり追っている人のことを「青い鳥症候群」に罹っているという。メーテルリンクの『青い鳥』にちなんで命名された。「俺は今こんな大学に通っているが、こんな所に来るような人間じゃないんだぞ！」と言うのも、一種の自己否定。

□□ 1828

burglar 「うちの婆(の)蔵に押し入った強盗」

[5][bɜːrglɜː バーグラー]

□□ 1829

tyranny 「世を平らにできない圧政」

[7][tɪrəni ティラニ]

説 普通は「乱れた世を平らげる」と表現する。**名** tyrant=暴君・専制君主、**形** tyrannical=専制的な、も覚えておくこと。

□□ 1830

parasite 「腹裂いて出てくる寄生生物」

[9][pəˈræsɪt パラサイト]

説 大学を卒業しても親と同居し、住居や食事などを親に依存している子たちをパラサイト・シングルと呼ぶ。

幹 「para=側(そば)」

「para=側」+「site=場所」= parasite
→宿主がいる場所の側に来る=寄生生物
「para=側」+「allel=相互」= parallel
→お互いの側にあるもの=平行の、平行線
「para=側」+「phrase=言い方」= paraphrase
→同じような言い方をする=言い換える、意識する

□□ 1831

intuition 「名古屋院、通院しようと女の直感」

[8][ɪntjuː(ɪ)ʃən インテュイション]

説 城本クリニックという美容整形外科の名古屋院の宣伝が新しくなりました。女の子が転げ回っているやつです。

□□ 1832
incentive 「いい線いって(る)! プ～ はげみになるブー太郎の言葉」
[7][insɛntiv インセンティヴ]

□□ 1833
legacy 「スバルのレガシーはもはや過去の遺物」
[8][lɛgəsi レガシ]

説 日本車のネーミングはちょっと変わっているね。スバルのレガシーも「長年受け継がれてきた古き良き技術」くらいの意味何だろうが、新しく良いモノがあるのに捨てきれない優柔不断さが見え隠れする。あ、ホンダの vigor(元氣)というのも変だった。

□□ 1834
retail 「足りている小売店」「たくさんの小売店(retail)を傘下に持つ(retain)イオン」
[6][ri:teɪl リーテイル]

説 イオンがダイエーを子会社にするそうです。ちょっと前にはマイカル(サティー)を合併吸収しています。これで売り上げは6兆円を超え、セブン&アイ(イトーヨーカドーとセブンイレブン)を抜いてトップに躍り出ます。全店舗分を一度に大量に仕入れるので調味料などは安いのですが、肉や魚では巨大チェーンのメリットが生かせてないですね。

□□ 1835
vein 「無駄な(vain)血管(vein)」
[7][veɪn ヴェイン]

説 似たような単語と一緒に覚えよう。「無だった」の in vain と発音は全く同じです。

□□ 1836
discourse 「ディスコ、すっかり落ちぶれたという論説」
[9][diskɔ:rs ディスコース]

説 70年代に隆盛を極めたディスコですが、今ではさっぱり見かけなくなりましたね。「もんだ」と言えば昔は Dancing All Night の「もんだ&ブラザーズ」でしたが、今では「みのもんだ」だもんですね。

□□ 1837
diploma 「自負(する)ローマで受ける卒業証書」
[7][dipləʊmə ディプロウマ]

□□ 1838
propaganda 「プロ(なら)パーがなんだ! 俺はパーティー、と自己宣伝」
[7][prəpəgændə プラバガンダ]

□□ 1839
outlet 「アウトレットの小売店での衝動買いはストレスのはけ口」
[5][aʊtlet アウトレット]

説 アメリカの outlet mall では欠陥品を破格値で売っているのだけれど、日本人は欠陥品にケチをつけてきて上手く行かなかったのが、ブランド名のついたアウトレット用の安物を作って売っているのが日本の outlet mall。日本人の見栄っ張りなところが良く現れていて悲しいね。世界中でこんなことをやっているのは日本だけだそう。

□□ 1840
apprehension 「このアプリ、変(で)しょ?!と不安顔」
[7][æprihɛnʃən アプリヘンション]

□□ 1841
melancholy 「イチゴ狩りがいい!メロン狩りなんて憂鬱!」
[7][mélɒnkəli メランカリ]

□□ 1842
novelty 「真新しさを述べるって?」
[8][nəvəlti ナベルティ]

□□ 1843
specimen 「宇宙飛行士(spacemen)の標本(specimen)」
[7][spɛsəmin スペサミン]

□□ 1844
barbarian ← barbarous 「婆[さん]バラすとは残忍で残酷な」
[7][bɑ:rbɛəriən バーベアリエン]

説 ギリシャが隆盛を極めていた頃、ギリシャ人はギリシャ語以外の言語が「バーバー(bar-bar)」としか聞こえないと言って軽蔑し、ギリシャ人以外の人間は粗野で野蛮だと考えた。そこから、「バーバー(bar-bar)」という音が「外国人」や、「粗野な」「野蛮な」の意味を表すようになった。それが英語になって、barbarian が「野蛮人、未開人、教養のない人」の意味に、barbarous が「野蛮な、残忍な」の意味になった。

□□ 1845
tactics 「宅地(を)貸す戦術」
[9][tæktiks タクティクス]

□□ 1846
monopoly 「要らん物放り込める独占状態」
[6][mənəpəli マナパリ]

頭 「mono=1」

「mono=1」+「poly=売る」= monopoly
→ 1人だけが売る=専売権、独占権

「mono=1」+「gamy=結婚」= monogamy
→ 1人とだけ結婚すること=一夫一婦制、単婚制

「mono=1」+「log=話す」= monologue
→ 1人で話すこと=独白

「mono=1」+「tone=調子」= monotone
→ 一本調子=単調さ 形 monotonous=単調な

□□ 1847

token 「7つの傷は特訓の印」

[4][tōukn トウクン]

説「北斗の拳」に登場する、北斗神拳の継承者であるケンシロウの胸には北斗七星を形をした7つの傷跡がある。それこそ特訓の印なのだ！？宮下君！これでよかったですか？

□□ 1848

aristocracy 「アリスと暮らした貴族階級の男」

[8][æristúkrəsi アリストクラシ]

幹「cracy=支配」

「aristo=最高」＋「cracy=支配」＝aristocracy

→最高位の貴族による支配＝貴族政治、貴族社会、貴族階級

「bureau=机」＋「cracy=支配」＝bureaucracy

→机に座る官僚による支配＝官僚政治、官僚支配、官僚制度

「demo=民衆」＋「cracy=支配」＝democracy

→民衆による支配＝民主主義

「pluto=金持ち」＋「cracy=支配」＝plutocracy

→金持ちによる支配＝金権政治、金権主義

□□ 1849

revenge 「take revenge on 人で人に復讐する」

[4][rivéndʒ リベンジ]

説「リベンジ」は日本語化している。日本人は「復讐」という言葉が好きで「復讐」に心動かされるので、昔からドラマのネタは「仇討ち」とか「復讐」だと相場が決まっている。動機を詮索する事なんてプロファイリングと同じくらい事件解決には役には立たないのだけれど、誰に対する復讐心がこの事件を引き起こしたのかを知ることで人々は納得して満足する傾向がある。onは「付加・加重のon」。

幹「venge=罰する」

「re=再」＋「venge=罰する」＝regenv

→仕返しで相手を罰する＝復讐する

「a=ad=方向」＋「venge=罰する」＝avenge

→こいつを罰する＝復讐する

□□ 1850

persecution 「バシッ！急所をつく迫害」

[8][pə:rsəkju:ʃən パーサキューション]

persecute 「バシッ！キューつと締め上げて迫害する」

[8][pə:rsəkju:t パーサキユート]

幹「secute=追って行く」

「per=perfect=完全」＋「secute=追う」＝persecute

→ずっと後を追いつける＝復讐する

「ex=外」＋「secute=追って行く」＝execute

→計画を遂行して結果を出す＝計画を実行する、達成する

「pro=前」＋「secute=後を追う」＝prosecute

→犯人の行状を追って、人前に提出する＝起訴する

□□ 1851

rhetoric 「キレイ！と理屈抜きの美辞麗句」

[7][rétərik レタリック]

□□ 1852

harassment 「セクハラ(sexual harassment)とは性的な嫌がらせのこと」

[8][hərəsmənt ハラスメント]

説 この「セクハラ」の基準というのが曖昧していて、「最近太ったね」は失礼だとしても「キレイだね」とか「セクシーだね」、果ては「髪切っただね」と言っただけでもセクハラになるそうだ。もうこれは男性に対する女性の嫌がらせに過ぎないよね。他にも日本には「パワハラ(power harassment)」とか「アカハラ(academic harassment)」と言うのもあって、自分の権力や地位を利用した上司や指導教官の嫌がらせを言う。あ、こっちは和製英語で、「いじめ」は子供の世界よりも大人の世界の方が陰湿でいやらしい。特に教師の嫌がらせはちょっと頭が良い分、陰湿さも増す。そんなこんなを見て子供が真似をしているというのが本当のところだろう。一方、アメリカでは人種差別はあっても、いじめはない。人種差別は皆が当たり前のこととして受け入れているところがあって、陰湿さはない。ましてや、同じ人種間でお互いをいじめるといのは考えられない。

□□ 1853

census 「国を精査する国民調査」

[7][sénsəs センサス]

□□ 1854

verge 「バージンロード歩けるかどうかの瀬戸際」

[9][vɔ:rdʒ バージ]

□□ 1855

advent 「あと、弁当が突然出現」

[10][édvent アドヴェント]

幹「vent=来る」

「ad=at=方向」＋「vent=来る」＝advent

→キリストがこっちに来る＝到来・キリストの再臨

「con=共」＋「vent=来る」＋「-ion=接尾辞」＝convention

→人が一緒に来る＝習慣・会議

「in=中」＋「vent=来る」＝invent

→頭の中から答えが出てくる＝発明

「pre=前」＋「vent=来る」＝prevent

→人の前に来て道をふさぐ＝邪魔をする・妨げる

□□ 1856
analogy 「野球選手を女子アナ等、じっと見つめるのが共通点」
[8][əˈnælədʒi アナラジ]

□□ 1857
irrigation 「灌漑は水を田んぼに入りゲイション」
[9][ɪrɪɡeɪʃən イリゲイション]

□□ 1858
coverage 「その内何人かは理事を殺したと報道」
[6][ˈkʌvərɪdʒ カバリッジ]

□□ 1859
cuisine 「アーレ、キュイジーヌは料理開始！」
[9][kwɪziːn クウィジーン]

説「料理の鉄人」の鹿賀文史や「アイアンシェフ」玉木宏が試合開始時に叫んでいる「アーレ キュイジーヌ」ですが、和製フランス語です。ま、「料理しに行きなさい！」くらいの意味で使っているのかもしれませんが、ちゃんとフランス人に添削してもらってないところなんか日本人らしくて良いですね。

□□ 1860
menace 「酷い目に明日遭わせるぞと脅迫」
[7][ˈmɛnəs メナス]

□□ 1861
peril 「ペリー等来港し、幕府の危機」
[6][ˈpɛrɪl ペリル]

□□ 1862
antiquity 「古代のアンティーク(を)行って買って来る」
[9][æntɪkwəti アンティークウイティ]

antique
[9][æntiːk アンティーク]

尾「-que=～風の」

「ante=古」+「que=～風の」= antique

→昔風の=古代の

「arabes=Arabia アラビア」+「que=～風の」= arabesque

→アラビア風の=アラビア唐草模様、アラビア風の

「picture=絵」+「que=～風の」= picturesque

→絵のような=美しい

□□ 1863
assault 「人の庭を漁るとライフルで攻撃」
[8][əˈsɔːlt アソールト]

説「アサルトライフル(Assault rifle)」というのがあって、全自動射撃ができる小銃全般をさす。

□□ 1864
plight 「ちょっとした苦境(slight plight)」
[10][plaɪt プライト]

説 似た単語と一緒に覚える。slight は「ちょっとした」の意味の形容詞。言葉遊びとしては面白いけど、実際には言わないので注意。

□□ 1865
autonomy 「太田のみある自主性」
[8][ɔːtɒnəmi オータナミ]

説 お笑いコンビ、「爆笑問題」の太田光と田中裕二。太田のボケに田中が突っ込むスタイルで、自主的に何か言っているのはいつも太田、ということか？

□□ 1866
cram 「クラムチャウダーの詰め込み」「ハマグリ(clam)を詰め込む(cram)」
[8][kræm クラム]

説 クラムチャウダー(clam chowder)のクラムは「ハマグリ」のこと。cram は大体「詰め込み教育 cram education」とか「塾、予備校 cram school」で出題される。

□□ 1867
subsidy 「寒さで暖房費の補助金増える」
[7][sʌbsədi サブサティ]

□□ 1868
indignation 「インド行くねーちゃん怒りにふるえる」
[7][ɪndɪɡneɪʃən インディグネーション]

□□ 1869
slang 「俗語(slang)で「長い(lang)」は long」
[7][slæŋ スラング]

説 よく似た単語と一緒に覚えよう。「スラング」も日本語化している。long のことをスコットランドでは lang と言うが俗語じゃない。日本では「蛍の光」と呼ばれている歌があるが、元々はスコットランド民謡 Auld Lang Syne に日本人が勝手に歌詞をつけたもの。old lang since が直訳になるが、「遠い昔」くらいの意味。

□□ 1870
posture 「経営姿勢(posture)の評価できる牧場(pasture)」
[8][ˈpɒstʃər パスチャ]

説 これもよく似た単語と一緒に覚える。

□□ 1871

ideology 「イデオロギー(ideology)とは世界に関する包括的な考え方のこと」

[6][aɪdiˈɒlədʒi アイディアラジ]

説 「イデオロギー」はドイツ語の発音。英語は「アイディアラジ」になることに注意。他にも「階級制度」の意味の「ヒエラルキー」もドイツ語で、英語では「ハイアラーキ (hierarchy)」になる。ここら辺が日本語の厄介なところ。

□□ 1872

supervisor 「イオン統括者の意向でスーパー倍増」

[8][sú:pərváizər スーパーバイザ]

□□ 1873

tumor 「妻が腫瘍」

[9][tjú:mər チューマー]

□□ 1874

intersection 「交差点(intersection)で妨害(interception)」

[7][ɪntərsékʃən インターセクション]

頭 「inter=間」

「inter=間」 + 「sect=分離」 = intersect

→間を分断する = 交差する

「inter=間」 + 「cept=捕らえる」 = intercept

→途中で捕まえる = 妨害する

「inter=間」 + 「change=交換」 = interchange

→2者の間で交換する = 交換する

「inter=間」 + 「pose=置く」 = interpose

→間に身を置く = 調停する、干渉する

「inter=間」 + 「vene=来る」 = intervene

→間に入ってくる = 介入する、干渉する、

「inter=間」 + 「rupt=破壊」 = interrupt

→間に割ってはいる = 中断する、遮断する

□□ 1875

excursion 「いかす車じゃん！これで遠足？」

[6][ɪkskú:rʃən イクスカーション]

□□ 1876

deforestation 「森林(forest)の破壊(deforestation)」

[12][di:fɔ:(r)ɪstéɪʃən ディーフォーリスティション]

説 「de=破壊」 + 「forest=森」 + 「tion=名詞語尾」 = deforestation から来ている。「de」は、「上から下へ大きな力を加える」が原義で、そこから、「破壊」とか「切断」、「分離」の意味が派生した。「de=破壊」 + 「press=ギユツ」 = depress も同じ「de」で、心に強い力が加わって破壊されることから、「失意落胆、意気消沈」の意味だったね。

□□ 1877

precaution 「TPP、不利(な)交渉に用心」

[6][pri:kəʃən プリコーション]

説 「pre=前」 + 「caution=用心」 = precaution で、「前もって用心すること」の意味。cautionにも「用心」とか「注意」の意味があるのに注意。プレ・オリンピック(Pre-Olympic)はオリンピック前年に開催される国際試合、プロペラ(propeller)回すと前に進むので、pre-や pro-は「前」の意味の接頭語だと分かるね。

□□ 1878

orchard 「お茶、どうしても植えぬ！果樹園には」

[6][ɔ:rtʃərd オーチャード]

□□ 1879

shortcoming 「欠点(shortcoming)が不足(shortage)」

[10][ʃɔ:rtkʌmɪŋ ショートカミング]

説 shortage of A で「Aの不足」、shortcoming of A で「Aの持つ欠点」。short は「短い」から「足りない」→「短所、欠点」の意味が派生する。だから、shortcoming にも shortage にも「欠点」の意味がある。

□□ 1880

aspiration 「明日、晴れでしょう！？と晴天を熱望」

[8][æspəreɪʃən アスパレイション]

aspire 「明日はいや！今日を熱望する」

[8][æspáɪər アスパイア]

幹 「spire=息」

「a=at=方向」 + 「spire=息」 = aspire

→それが欲しくてため息をつく = 熱望する

「in=中」 + 「spire=息」 = inspire

→息を吹き込む = 元気づける、ヒントを与える

「con=共」 + 「spire=息」 = conspire

→共に息を合わせる = 協力する、共謀する

「ex=外」 + 「spire=息」 = expire

→最後の息を吐き出す = 息を引き取る、火が消える、発効期間が終わる

□□ 1881

psychiatrist 「最下位は・・・とリストを開く精神科医」

[9][saɪkíətrɪst サイカイエトリスト]

□□ 1882

shipping 「失費がかさむ発送」

[5][ʃɪpɪŋ シッピング]

説 ship は「船」で、そこから「船に荷を積む」→「出荷する」→「発送する」と意味が広がった。shipping は、swimming と同じで動名詞「発送すること」が完全に名詞化して「発送」になっている。

□□ 1883
senator 「歯を見せ、ニタツと笑う上院議員」
[6][sɛnətər セニタ]
幹 「sen=上」
「sen=上」 + 「ate=組織」「or=人」 = senator
→上院の人=上院議員 [名] senate=上院、元老院
「sen=上」 + 「ior=人」 = senior
→年上の人=年長者、先輩、老人

□□ 1884
statesman 「国(state)を動かす人(man)が政治家」
[5][steɪtsmən ステイツマン]

□□ 1885
subordinate 「サボるでねえ！と叱られる部下」
[8][səbɔːrɪdənət サボーディネイト]

□□ 1886
vacuum 「バキューム・カー(vacuum car)の中は真空」「掃除機(vacuum cleaner)の中も真空」
[5][vækjuəm ヴァキュウム]
説 まだ下水道が整備されていなかった頃は、トイレはくみ取り式、いわゆるポットン便所だった。月に数回糞尿収集車、別名バキュームカーが来て、たまったものを持って行ってくれた。vacuum には「キレイに掃除する」の意味があって、文字通りたまったものをキレイに掃除していつくれる。吸い込むにはタンクの中にある空気を抜いて空っぽにしなきゃならないので、vacuum の原義は「真空」。

□□ 1887
quest 「ドラゴン・クエストは竜王を探し求める冒険の旅」
[6][kwɛst クウェスト]
説 quest には「探求」「探索」と「冒険の旅」の2つの意味がある。スクエアの「FF」とエニックスの「ドラゴン・クエスト」が合併によって何だか独自性が薄まって何だかつまらなくなったと思っているのは数下だけでしょうかね。大体、オンラインゲームというのがいけませんね。

□□ 1888
meditation 「瞑想で解脱とは、めでたい(で)しょ！」
[7][medɪtේʃən メディテイション]

□□ 1889
subscriber 「寒っ！空くライブはファンクラブ加入者だけ」
[9][səbskraɪbər サブスクライバ]
幹 「scri=書く」
「sub=下」 + 「scribe=書く」 = subscribe
→契約書の下の方に名前を書く→署名する [名] subscriber=署名者、予約購読者
「de=下」 + 「scribe=書く」 = describe
→下の紙に書く→書く・説明する
「in=中」 + 「scribe=書く」 = inscribe
→石の中に書く→石碑に刻む
「pre=前」 + 「scribe=書く」 = prescribe
→医者が前もって書く→薬を処方する

□□ 1890
riddle 「トリンドル玲奈の謎」
[6][rɪdl リドル]
説 トリンドル玲奈って、一見おバカキャラのように見えるのですが、ICU高校から慶応大に行ってる才女ですよ。ま、ドイツ人のお父さんの仕事の関係で、ずっと海外を転々としていたそうですから、ドイツ語、英語、日本語はぺらぺらでしょうから、帰国子女の多い慶応大って言うのは順当なところでしょうかね。ちょっと遊び友達に問題があるような気がするのですが、謎はありません。

□□ 1891
rag 「ラグ(小さな絨毯=rag)についたタグ(値札=tag)」
[5][ræg ラグ]
説 「ラグ」は日本語化している。小さな絨毯(じゅうたん)や布を「ラグ」と呼んでいる。rag はもともと「布きれ」や「紙片」を表現する言葉だったけど、そこから「雑巾」→「小さな布」→「小さな絨毯」と意味が広がった。

□□ 1892
rust 「錆び(rust)た信頼(trust)」
[6][rʌst ラスト]
説 似たような単語と一緒に覚えよう。trust の発音も[trʌst] で同じ。last は [læst] になる。

□□ 18393
sanitation 「さあ、煮て使用！公衆衛生」
[15][sænətේʃən サニテイション]
幹 「sani=健康、健全」
「sani=健康」 + 「tate=動詞語尾」 = sanitize
→健康にする=衛生的にする [名] sanitation=衛生、衛生施設
「sani=健康」 + 「-ty=名詞語尾」 = sanity
→精神が健康であること=正気
「in=否」 + 「sane=健康」 = insane
→精神が健康でないこと=気の狂った
「sani=健康」 + 「tary=形容詞語尾」 = sanitary
→健康に良い=衛生的な、

□□ 1894

midst

「身、ドスッと真ん中に座る」

[6][mɪdst ミドスト]

幹 「mid=真ん中」

「mid=真ん中」 + 「-st=名詞語尾」 = midst
→真ん中=中央、真つ最中

「mid=真ん中」 + 「night=夜」 = midnight
→夜の真ん中=真夜中

「mid=真ん中」 + 「summer=夏」 = midsummer
→夏の真ん中=真夏、夏至

□□ 1895

mischief

「ミス！チーフがミス！と、茶目っ気たっぷりのいたずらっ子」

[5][mɪʃɪf ミスチフ]

説 chief は日本語化していて、「チーフ」とか「ボス」の意味で使っている。元は「頭」の意味で、「グループのヘッド(head=頭)」だから「チーフ」。mis には「悪い」とか「ひどい」の意味があつて、mischief で「頭がひどく痛むこと」→「いたずら」と意味が広がった。

□□ 1896

weed

「種子が動物について移動する雑草」

[4][wi:d ウィード]

□□ 1897

recollection

「記憶の断片をもう1度(=re)集める(=collect)のが思い出すこと」

[7][rekəleɪʃən レカレクシャン]

幹 「re=再」

「re=再」 + 「collect=集める」 = recollect

→記憶の断片をもう一度集める=思い出す 名 recollection=思い出、記憶

□□ 1898

latitude

「拉致中でも余裕」

[7][lætətju:d ラタテュード]

説 「lat=広い」 + 「itude=状態」 = latitude で「広い状態」が原義。そこから、「許容範囲が広いこと」→「自由度が高く余裕があること」の意味が派生する。一方で、広い範囲での位置を特定するための、黄道(赤道)を基準とした「緯度」も表現する。経度は longitude。

□□ 1899

flaw

「風呂に欠陥」「あふれ来る(flowing)欠陥(flau)」

[9][flɔ: フロー]

説 flow の方は[flóu フロウ]と発音する。普通は「流水 flowing water」などと使う。

□□ 1900

botanist

「牡丹 ist とは植物学者」

[9][bátənist バタニスト]

botany

「バツタにも愛情そそぐ植物学」

[9][bátəni バタニ]

□□ 1901

heredity

「親の遺伝に比例で低脳」

[9][hərədəti ハレディティ]

□□ 1902

domain

「尖閣は日米同盟の領域内」

[7][dəuˈmeɪn ドウメイン]

□□ 1903

censorship

「センサー(で)船(ship)を検閲」

[9][sɛnsərʃɪp センサシツ]

□□ 1904

dose

「どうするの？服用量多すぎ！」

[7][dəʊs ドウス]

□□ 1905

integrity

「誠実でいくよりいい手があつて？」

[8][ɪntɪgrəti インテグリティ]

説 積分記号の ∫ (インテグラル)ですが、「in=否」 + 「tegr=触」 + 「al=形容詞語尾」 = integral が語源で、「触れることができない」→「完全体の」と意味が広がります。少数に比べて整数は完全体ですから、integral や integer には「整数」の意味があります。そして、積分とは面積を求めること、言い換えるとXYの軸線と関数線で囲まれた範囲を完全に塗りつぶすことと同じだから、integral は「積分」の意味にもなります。その名詞形が integrity で「完全なる状態」が原義です。人の心が完全な状態であることが「誠実」であることというのは面白いですね。ちなみに、微分は傾きを求めるための計算で、傾きゼロからどれだけ差(differential)があるのかを割り算するので differential と言います。

□□ 1906

freight

「ふっ！冷凍貨物だぜ」「貨物(freight)にびっくり(frighten)」

[7][freɪt フレイト]

□□ 1907

bribe

「賄賂騒ぎでぶっ飛ぶライブ中継」

[6][braɪb ブライブ]

説 レスリングが競技種目から外されるそうです。ロビー活動という名の賄賂が種目決定の決め手となっていそうですね。「日本人はサル」のパフォーマンスをした韓国の子に対する FIFA の裁定もそうですが、もうスポーツ界全体がダラダラでユルユルな感じですね。

□□ 1908

eruption 「噴火以来、負傷者多数」

[10][irʌpʃən イラプション]

幹 rupt=破裂する

「e=ex=外」+「rupt=破裂」=erupt

→外へ向かって破裂する→火山が噴火する

「bank=銀行」+「rupt=破裂」=bankrupt

→銀行が破れる→破産・倒産

「co=完全」+「rupt=破裂」=corrupt

→完全に生活が破壊する→墮落した・腐敗した

□□ 1909

clone 「クローン人間とは無性生殖で生まれた複製人間」

[8][klóun クローン]

説 cloning は clone の動名詞形が名詞化したもので「クローン作成」とか「クローンを作ること」の意味。

□□ 1910

appliance 「あ！プライヤー、スパナは修理器具」

[7][əpláɪəns アプライアンス]

説 apply は「適用する」。そこから、色んな状況に適応した「装置」や「器具」の意味も派生した。

□□ 1911

predator 「プレディタとは捕食動物」

[10][prédətər プレダタ]

説 1987年の米SF映画『プレディタ』は宇宙を放浪して星に生息する生物を狩猟して食べる捕食動物。最近では『エイリアン VS プレディタ』といういい加減な映画もできている。大体、宇宙人同士が殺し合うという設定が変。

□□ 1912

recipe 「レシピ(recipe=料理法)に興味のない現代人」

[5][rɛsəpi レサピ]

説 伝説の番組『料理の鉄人』が『アイアン・シェフ』となって復活したが、視聴率は散々で最終回でも4%くらいしか行かなかったようだ。昔の『料理の鉄人』では様々な食材を奇抜なレシピ(recipe=料理法)で料理して、その出来映えを競って面白かったのだけれど、最近インターネット上にレシピ・ブログがゴロゴロしていてレシピ(recipe=料理法)なんかに現在人は興味がないし、この不況下で高級食材なんて非現実的だ。それよりも、どこの店が安くて旨いのかの方に興味が高いのではないか？

□□ 1913

ash 「ドラゴン・アッシュは竜の灰！？」

[4][æʃ アシュ]

説 彼らは「だだだ生きてると灰になる」の意味のつもりで drag on ash を縮めて Dragon Ash と命名したらしいが、どうせ言葉遊びなのだからどうでもよいのだけれど、drag on は「会議が長引く」の意味で使う自動詞だから、後ろに目的語の ash がくるのはおかしい。drag on A の他動詞で使うと「Aの足を引っ張る」になって「灰の足かせになる」って意味不明だ。

□□ 1914

whistle 「口笛も笛もホイッスル」

[3][hwɪsl ウィスル]

□□ 1915

plantation 「プランテーションとは途上国の大農園のこと」

[6][plæntéɪʃən プランテイション]

説 中学の時に「プランテーション農業」というのを習った。先進国が途上国の広大な土地と安価な労働力を使って、1つの農作物を大量に生産するのを指す。その土地のことを plantation=大農園と呼んだ。作られた農作物は先進国に輸出するだけなので途上国の利益にはならず、逆に労働力の多くをプランテーション農業に奪われるので、食糧難に喘ぐことになった。本当に先進国というのは身勝手だね。

□□ 1916

intake 「動摂取するは take in、名摂取は intake」

[7][ɪnteɪk インテイク]

説 see sights が sightseeing、bathe in the sun が sunbathing になったりするように、take in が intake と逆に名詞化することがよくある。

□□ 1917

vending machines 「自動販売機は vending machines」

← **vend** 「弁当を売り歩く」

[7][vɛnd]

説 vend は「販売する」とか「売り歩く」の意味の他動詞。それが動名詞化して名詞を飾ると、用途や目的を表現する。例えば sleeping bag は「寝るという目的のための袋=寝袋」、vending machines は「販売を目的とする機械=販売機」となる。

□□ 1918

beverage 「キリン・ビバレッジは飲み物を作る会社」

[7][bɛvərɪdʒ ビバリッジ]

□□ 1919

orphan 「普天王ファンの孤児」

[6][ɔːrfn オーフン]

□□ 1920

neuron 「ニューロンとは神経細胞のこと」

[11][njuːrɒn ニュアラン]

□□ 1921

vegetation 「美人って衣装に植物模様」

[9][vedʒə'teɪʃən ヴェヂテイション]

幹 「vege=生き生き」

「vege=生き生き」 + 「tate=動詞語尾」 = vegetate

→植物のように生き生きと成長する [名] vegetation=植物、植生

「vege=生き生き」 + 「able=可能」 = vegetable

→生き生きしている=植物の、野菜の、

説「植生」は環境用語で、ある場所に植物が集団で生育している状況を指す。人間の影響を全く受けてない植生（原植生）、原植生が破壊されて代わりに出来上がった植生（代償植生）、人間の生活圏内の植生（現存植生）、人間がいなくなったら出来上がる植生（潜在自然植生）などがある。

□□ 1922

warrior 「キョクシン・ウォリヤーズは極真空手の子供戦士」

[5][wɔːrɪər ウォリヤー]

□□ 1923

mutation 「ミュータント・タートルスは突然変異体のカメ」

[10][mjuː'teɪʃən ミューテイション]

幹 「mut=変化」

「mut=変化」 + 「ate=動詞語尾」 = mutate

→変化する=突然変異する [名] mutation=突然変異

「mutate=変化する」 + 「tant=人」 = mutant

→突然変異した人=突然変異体

「co=共」 + 「mute=変化」 = commute

→一緒に変化する=交換する、切り替える / 皆で電車で移動する=通勤(学)する

□□ 1924

sewage 「炊事で出た汚水」

[11][sɪːdʒ スーイジ]

□□ 1925

metabolism 「メタボとはメタボリック・シンドローム(metabolic syndrome)のことで代謝症候群の意味」

[11][mə'tæbəlɪzəm メタバリズム]

説「メタボ」は日本人お得意の省略表現の1つで、[名] metabolism=代謝、[形] metabolic=代謝の、を短くした単語。血液中の糖や脂肪を分解するための身体の新陳代謝の異常を「メタボリック・シンドローム(代謝症候群)」と呼んでいる。メタボ治療薬のエパデルは今までは病院で処方される薬だったけど、申請が通って薬屋で手に入るようになる。申請が通るのに3年もかかったのは医師会が猛烈に反対したかららしい。医者は処方制を書いて薬を出してナンボ。これが薬屋で手に入るとなると、医者はお金にならないので気に入らないのも当然。

□□ 1926

paradigm 「パラダイム・シフトは思想的枠組みの大転換」

[10][pə'rædaɪm パラダイム]

□□ 1927

protocol 「TCP/IP(Internet Protocol)はインターネットの通信規約」

[9][prəʊtəkəl プロウタカル]

説 protocol の原義は「約束事」。環境問題を京都で皆で話し合っただけで決めた約束事が「京都議定書(the Kyoto Protocol)」、インターネット上の情報の伝達方法の約束事が「インターネット・プロトコル(IP-Internet Protocol)」です。「規約」、「議定書」、「協定」、「協約」と色んな日本語になりますが、元は「約束事」です。

□□ 1928

skyscraper 「空(sky)を削り取って(scrape)そびえ立つ物(er)」

[6][skɑːskreɪpər スカイスクレイパ]

□□ 1929

accord 「車はホンダのアコードだと意見が一致」

[4][ə'kɔːrd アコード]

□□ 1930

bureaucrat 「武勇は楽っ!と豪語する官僚」

[10][bjʊərəkræt ビュアラクラト]

幹 「bureau=机」

「bureau=机」 + 「crat=支配する人」 = bureaucrat

→机に座って支配する人=官僚

「bureau=机」 + 「cracy=支配」 = bureaucracy

→机に座る官僚による支配=官僚政治、官僚支配、官僚制度

説 bureau はもともとは「机」の意味。今でも「化粧ダンス」とか「整理ダンス」の意味で使う。そこから、「きちっと区切られた所」→「局」と意味が広がって、連邦捜査局(FBI=Federal Bureau of Investigation)にも出てくる。

形容詞・副詞

□□ 1931

stubborn 「シルベスタ・スタローン(Sylvester Stallone) は頑固な(stubborn)人」
[5][stʌbərn スタバーン]

□□ 1932

renowned 「リン(ちゃん)合うんだ!と主張する有名なブランド」

[9][rɪnaʊnd リナウンド]

説 これも数下には分かりません。初音ミクに登場する「リンちゃん」という子がいるらしいのですが、「リンちゃんなう」って何ですか？

□□ 1933

transparent 「透けて(trans)見える(parent)くらい透き通っている」

[6][trænspeərənt トランスペアラント]

幹 「parent=見える」

「trans=透けて」 + 「parent=見える」 = transparent

→透けて向こうが見える=透明な

「a=at=方向」 + 「parent=見える」 = apparent

→そっちが見える=明白な、一見そうみえる

□□ 1934

dim 「ボクシングジムは薄暗い」

[5][dɪm デイム]

□□ 1935

grim 「冷酷なグリム童話」

[5][grɪm グリム]

□□ 1936

legitimate 「おい理事! てめえとは合法的なお付き合い」

[7][lɪdʒɪtɪmɪt リジテイミト]

幹 「leg=法律」

「leg=法律」 + 「imate=最上級」 = legitimate

→もっとも法律的な=合法的な、正当な

「leg=法律」 + 「-al=形容詞語尾」 = legal

→法律の=法律上の、合法的な、正当な

「leg=法律」 + 「slate=作る」 = legislate

→法律を作る=法を制定する

幹 「itim=最上級」

「int=in=中」 + 「imate=最上級」 = intimate

→1番内側の=親密な、仲の良い

□□ 1937

weary 「疲れてるのは上には上あり」

[7][wɪəri ウィアリ] **発音**

□□ 1938

swift 「水夫と警察の素早い対応」

[5][swɪft スウィフト]

□□ 1939

naive 「内部は世間知らずのバカばかり」

[9][naɪv ナーイーヴ]

説 「あいつはナイーブな奴だ」と言うとき、「彼は純粋で繊細な人だ」くらいの意味で日本人はナイーブを使っているが、元はフランス語の naif が英語の中に入ってきたもので、フランス語には「素直な」の良い意味と「世間知らず」の悪い意味が同居するが、英語には悪い意味しかないので注意!

□□ 1940

dumb 「馬鹿げたダム建設」

[4][dʌm ダム]

説 「日本強靱化計画」という名の土建屋へのバラマキの一環として、八ツ場ダムの工事費が平成25年度予算案に18億円盛り込まれた。本当に馬鹿げたダム建設である。結局は族議員の復活を果たした結果となったね。

□□ 1941

sour 「不愉快なくらい酸っぱいサワークリーム」

[3][saʊər サウアー]

□□ 1942

fury 「インフルエンザが猛威をふるう冬あり!」

[7][fjʊər フュアリ]

「fury=猛威」 + 「-ous=形容詞語尾」 = furious

→猛烈な、激怒した

□□ 1943

earnest 「真面目な男を誘惑する姉(の)ストッキングはいつも黒」「兄、ストにはいつも本気」

[5][ɜːrnɪst アーニスト]

□□ 1944

terrific 「テリー(が)弾くベートーベンはすばらしい」

[5][tə'rifɪk テリフィック]

幹 「terr=驚」

「terr=驚」 + 「fic=形容詞語尾」 = terrific

→人を驚かせるような=すごい、すばらしい (主に良い意味で使う)

「terr=驚」 + 「ible=できる」 = terrible

→人を驚かせることができる=ひどい、おそろしい (主に悪い意味で使う)

「terr=驚」 + 「or=名詞語尾」 = terror

→人を驚かせるもの=恐怖 名 terrorism (テロ行為)、名 terrorist (テロリスト)

□□ 1945

vertical 「バチカンの国旗は垂直の長方形」

[7][və:'vɜ:rtɪkəl ヴァーチカル]

説 普通、国旗は横長(水平長方形)なのですが、バチカン市旗は縦長(垂直長方形)でほとんど正方形に見えます。バット見では右側1/3が欠けている様な気がします。

□□ 1946

wicked 「魔女の息、どうしても 邪悪な匂い」

[4][wɪkɪd ウィキッド]

□□ 1947

subjective 「主語(subject)がいっぱい(tive)だと 主観的な文」

[7][səbdʒektɪv サブジェクティブ]

幹 「ject=投げる」

「sub=下」 + 「ject=投げる」 = subject

→下に投げる→沈んで底の方にある=根底にあって見えない主体、主観

→命令を下に投げかける→支配下にある=臣下、家来

→自分が言ってることの根底にあるもの=テーマ、主題

→教育内容の下に位置づけられるもの=教科、科目

「ob=前」 + 「ject=投げる」 = object

→目の前に投げる=よく見える客體、客観

→目の前に投げ出されてあるもの=物體

→目の前の物を狙って投げる=目的、目的物、対象

→目下の意見に対して投げかけられるもの= objection = 反対、異議、不服

「pro=先」 + 「ject=投げる」 = project

→未来に向かって投げかける=計画する

→前の方に向かって投影する=映写する

「re=後」 + 「ject=投げる」 = reject

→相手の提案を投げ返す=拒否する、拒絶する

「in=中」 + 「ject=投げる」 = inject

→身体の中に投げ込む=注射する、注入する

「e=ex=外」 + 「ject=投げる」 = eject

→外へ投げ出す=追い出す、取り出す、排出する

□□ 1948

enlightened 「進んだ考えを持ったのは偉い点だ。」

[15][ɪnlaɪtnd インライトンド]

頭 「en=その状態にする」

「en=する」 + 「lighten=明るくなる」 = enlighten

→明るくなる状態にする=教え導く、啓蒙する

「en=する」 + 「large=大きい」 = enlarge

→大きくする

「en=する」 + 「rich=豊富な」 = enrich

→豊かにする・濃厚にする

尾 「-en=動詞化」

「light=明るい」 + 「-en=動詞化」 = lighten

→明るくなる

「fright=恐怖」 + 「-en=動詞化」 = frighten

→怖くなる=びっくりさせる

「fresh=新しい」 * 「-en=動詞化」 = freshen

→新しくする=新たに、勢いづける

□□ 1949

feudal 「ひゅ〜ドロドロと出現する封建的なお化け」

[9][fju:dl フュードル]

□□ 1950

nasty 「ナスって 不快な食べ物」

[4][næsti ナステイ]

□□ 1951

dizzy 「ジジイになると止まらぬめまい」

[6][dɪzi デイジ]

□□ 1952

straightforward 「素直に(straight)人前に(forward)出す単刀直入な意見=分かりやすい意見」

[7][streɪtfrɔ:rwɜ:d ストレイトフォーワード]

□□ 1953

solemn 「荘厳な宮殿を去らん」

[8][sələm サラム]

□□ 1954

damp 「湿ったダンプ」

[5][dæmp ダンプ]

説 ダンプカーは和製英語で、正しくは dump truck と言います。dump には「投げ捨てる」の意味があって、例えば「不法投棄物」を dump garbage と言います。だから、荷台を傾けて積んでいる物を投げ捨てるトラックが dump truck です。damp とは違うので注意してください。

□□ 1955

static 「こすってチクチク静電気」

[7][stætik スタティック]

説 名 static には「静電気」の意味がある。

□□ 1956

doomed

[15][dú:md ドゥームド]

doom 「どうも悲しい運命」

[15][dú:m ドゥーム]

説 doom の過去分詞が doomed で「運命づけられた」の意味。A is doomed to ~ で「A は~する運命にある」の意味で、悪い運命にしか使わないことに注意。一方、A is destined to ~ は良い運命にも、悪い運命にも使える。

□□ 1957

stern 「吸ったんなら停学！と厳格な生活指導部」

[5][stó:rn スターン]

□□ 1958

innumerable 「数えることができる(enumerable)ことのない(in)くらい無数の」

[7][injú:mərəbl イニューメラブル]

説 「numer=number=数」

「numer=数える」+「able=できる」= numerable

→数えられる=計算できる

「in=否」+「numerable=数えられる」= innumerable

→数えられない=無数の

「bumer=数」+「-ous=いっぱい」= numerous

→数がいっぱいある=多数の

□□ 1959

clumsy 「黒無地の服を着た不器用な男」

[7][klámzi クロムジ]

□□ 1960

aesthetic 「不衛生(な)チックで固めた美的あたま」

[8][esθétik エセティック]

□□ 1961

obsessed 「アブ刺すと恐怖にとりつかれる」

[8][əbsést アブセスト]

□□ 1962

detached 「hide 達とは切り離された X-Japan」

[8][ditætʃt デイタッチト]

□□ 1963

innate 「先天的な疾患じゃないといいね！」

[8][inéit イネイト]

説 「nat=生まれる」

「in=中」+「nate=生まれる」= innate

→生まれたときから中になる=生まれながらの、先天的な

「nat=生まれる」+「ure=名詞語尾」= nature

→生まれたまま=自然、天然、性質

□□ 1964

wrecked 「スタートレックと言えば難破したペガサス」「難破した(wrecked)無謀な(reckless)エンタープライズ」

[7][rékt レックト]

説 スタートレック第164話『難破船ペガサスの秘密』に出てくる逸話だそうですが、藪下はスタートレックは知ってますが、内容の詳細は忘れました。あ、スタートレックってみんな知ってるのかな？エンタープライズ (Enterprise) が船の名前だったよね。

□□ 1965

reckless 「周りを気にする(reck)ことが全くない(less)無謀な運転」

[6][réklis レクリス]

説 「-less=無」

「reck=気にする」+「-less=無」= reckless

→周りを気にしない=無鉄砲な、向こう見ずな

「help=助力」+「-less=無」= helpless

→助けがない=無力な・寄る辺ない

「price=値段」+「-less=無」= priceless

→値段がつけられない=極めて貴重な

「sense=感覚」+「-less=無」= senseless

→意義が感じられない=意味のない

→感覚がない=意識を失った

「rest=安心」+「-less=無」= restless

→安心できない=不安な・落ち着かない

「regard=関心」+「-less=無」= regardless of ~

→~に関心がない=~を無視して・~にもかかわらず

□□ 1966
explicit 「イク素振りして露骨な演技」←あのねえ！
[8][iksplisit イクスプリシット]

□□ 1967
preoccupied 「前から(pre)そのことで頭が占有されて(occupied)いて頭がいっぱい」
[10][pri:ɔkjupaid プリアキュバイド]

頭「pre=前」
「pre=前」+「occupy=占有」=preoccupy
→前もって占有する=心を奪う、夢中にさせる **過去分詞** preoccupied=心を奪われている状態
「pre=前」+「scribe=書く」=prescribe
→医者が前もって書く→薬を処方する
「pre=前」+「fer=運ぶ」=prefer
→前に出す→AよりもBを前に出す→AよりBの方を好む
「pre=前」+「serve=保つ」=preserve
→前もってとっておく→保存する
「pre=前」+「sume=取る」=presume
→前もって取り入れる→推定する
→人より先に取る→でしゃばる・つけあがる
「pre=前」+「tend=行く」=pretend
→実際よりも前に行く=ふりをする

□□ 1968
gigantic 「ジャイアン、小っこいのより巨大なだら焼き好む」
[7][dʒaɪgæntɪk ジャイガンティック]

説 ギリシャ神話に出てくる「巨人」の名前がギガス(Gigas)やギガント(Gigant)。それが英語になるとジャイアント(giant)になった。だから、giganticもbigも語源は同じギリシャ語です。

□□ 1969
conspicuous 「このスッピン急(に)明日目立つ ケバ顔」
[8][kɒnspɪkjʊəs カンスピキュアス]

□□ 1970
slender 「スレンダー美人はすらりとした女の子」
[5][sléndər スレンダ]

□□ 1971
manifest 「選挙のマニフェストは党の目指すところを明らかにする宣言文」
[7][mænɪfɛst マニフェスト]

説 選挙のマニフェストはmanifestoと「o」が要る。2003年の総選挙で民主党が日本で初めてこの言葉を使った。ま、結局上手く行かなかったのだけれど。

□□ 1972
tidy 「鬼退治の桃太郎は几帳面なA型」
[4][taɪdi タイディ]

□□ 1973
naughty 「知能低！やんちゃでエロい少年」
[6][nɔ:ti ノーティー]

□□ 1974
skeptical 「押すのエスケープ(キーと)違うだろ?!と懐疑的な見方」
[9][sképtɪkəl ケプティカル]

□□ 1975
notorious 「悪名高い会社は乗っ取りやすい」
[9][nɒtɔ:riəs ノウトーリアス]

□□ 1976
anonymous 「穴に鱒釣る作者不明の写真」
[7][ənɒnɪməs アナニマス]
説「鱒の穴釣り」というのがあって、氷に穴を開けて釣り糸をたれるらしい。99の岡村達がやっていたそうです。

□□ 1977
monotonous 「葉ものとナスだけの単調な品揃え」
[7][mənɒtənəs マナタナス]
頭「mono=1」
「mono=1」+「tone=トーン、調子」=monotone
→1本調子=単調さ 形 monotonous=一本調子の、単調な
「mono=1」+「poly=売る」=monopoly
→1人だけが売る権利=専売権、独占
「mono=1」+「logu=話」=monologue
→1人で話す=独白、1人芝居

□□ 1978
ample 「日米安保には潤沢な予算」
[6][æmpl アンポ]

□□ 1979
trim 「犬のトリマー(trimmer)は、犬の毛を刈って、こざれいな姿にしてやる仕事」
[5][trɪm トリム]
説 トリミングとかトリマーは日本語化している。写真の余白を切り取ることや、料理の付け合わせを作ることをトリミングと言っている。トリマーは毛を刈る人。

- 1980
toxic 「ロンドンタクシー、クリーンで有毒な排ガスゼロ」
 [8][táksik タクシク]
 説 ロンドンオリンピックに合わせて、ロンドン市内を走るタクシーを排気ガスを出さない燃料電池車にしたそうだ。これを機にロンドン是世界初のゼロミッション都市を目指すという。
- 1981
afflict 「あ、不利苦闘を強いて苦しめる」
 [8][əflɪktɪd アフリクト]
afflicted = 過去分詞で「苦しめられてる状態」→「苦しんでいる」
 [8][əflɪktɪd アフリクティド]
 説 afflict は「させる系の他動詞」で「悩ませる」とか「苦しませる」の意味で、interest と同じ使い方。「人 is -ed」、「モノ is -ing」になる。詳しくは「藪研」の検索窓から「させる系」で検索してください。
- 1982
eloquent 「エロ（では）食えん！と説得力のある話」
 [7][élɒkwənt エラクウエント]
- 1983
foul 「ファールで粘るきたないやり方」
 [6][faʊl ファウル]
- 1984
juvenile 「柳生十兵衛参る！少年少女の剣道教室」
 [8][dʒu:vənail ジューベナイル]
- 1985
compulsory 「この春総理が提案した TOEFL の義務的な受験」
 [6][kəmˈpʊlsəri カンパルサリ]
 説 グローバルな人材育成を目指し、国立大学の受験資格として TOEFL を強制的に受験させることを自民党が検討している。気合いは分かるのだけど、提案者はこの TOEFL を受験したことがあるのかね？センター試験とどれだけ難易度が違うのか分かっているのかね？是非とも成蹊大学出身の安倍総理に TOEFL を受験してもらいたいものです。
- 1986
prone 「プロ（でも）運に頼る傾向がある」
 [9][prəʊn プロウン]
 説 「～しやすい」とか「～する傾向がある」の表現には be prone to だけでなく be apt to というのがある。prone はそうやって欲しくないような傾向、apt は人やモノが持っている性質上そうってしまうような傾向を表現します。どちらにも使えるのが tend to です。
- 1987
arbitrary 「アワビ取られ禁漁だ！と勝手な決定」
 [8][ɑ:rbɪtrəri アービトレリ]
- 1988
ingenious 「印字にはすごく独創的な技術」
 [7][ɪndʒi:niəs インジーニユアス]
 説 「geni=生む」
 「in=中」＋「geni=生まれる」＋「-ous=形容詞語尾」= ingenious
 →生まれつき自分の中にあるもの=器用な、巧みな
 「geni=生まれる」＋「-al=形容詞語尾」= genial
 →生まれつき持っている性質=親切的な、愛想の良い
 「geni=生まれる」＋「-us=名詞語尾」= genius
 →生まれつきのもの=天才、才能
- 1989
divine 「磁場、引力のある神聖なる場所」
 [6][dɪvaɪn デバイン]
- 1990
tender 「そこが彼女のやさしい点だ」
 [4][tɛndər テンダ]
- 1991
outrage 「お前と合うと零時過ぎになり親が憤慨している」
 [7][aʊtreɪdʒd アウトレイジ]
- 1992
eccentric 「幾千(も)トリック考えた風変わりなマジシャン」
 [7][ɪksɛntrɪk イクセントリック]
- 1993
paralyze 「パラパラはいずれ体を麻痺させる」
 [7][pærəlaɪz パラライズ]
paralyzed 「させる系」の過去分詞だから「麻痺している」
 [7][pærəlaɪzd パラライズド]
 説 interest と同じで、paralyze も「させる系の他動詞」で「麻痺させる」。させる系の受け身は進行形の訳語がつく。詳細は「藪研」の検索窓で「させる系」で検索してね。
- 1994
compatible 「環八（は）ブルーバードと相性が良い」←日産のブルーバードってもうないんじゃない？
 [8][kəmˈpætəbl カンパチブル]

□□ 1995
patriot 「パトリオット・ミサイルを配備するのが愛国者」

[7][peitriátik ペイトリアット]
patriotic + 「-ic=形容詞語尾」で「愛国的な」

[7][peitriátik ペイトリアティック]
説 「patr=父」
「patr=父」 + 「iot=人」 = patriot
→ 父祖の国を愛する人 = 愛国者
「patr=父」 + 「on=人」 = patron
→ 父のような人 = パトロン、後援者、恩人

□□ 1996
eminent 「笑みなんと 美しい 著名な 女優」

[7][éminənt エミナント]

□□ 1997
fake 「アップルのフェイク製品とは偽物のこと」

[6][féik フェイク]

□□ 1998
insane 「白河上皇の院政は気が狂っている」

[7][inséin インセイン]

□□ 1999
bewilder 「ビールだ！酒だと新入生を当惑させる新歓コンパ」

[8][biwíldə ビウイールド]

□□ 2000
vulgar 「とっても下品なボルガの舟歌」

[7][vʌlgə バルガ]

□□ 2001
secondhand 「二人目(second)の手(hand)に渡った中古の車」

[6][sékəndhænd セカンドハンド]

□□ 2002
indigenous 「インドでナス栽培した先住民」

[10][indídʒənəs インディジェナス]

□□ 2003
utmost 「utmost=most で最も」

[6][ʌtmoust アトモウスト]

説 「most=最上級」
「ut=out=外」 + 「most=最上級」 = utmost
→ 1番外 = 最大限、極限
「fore=前」 + 「most=最上級」 = foremost
→ 1番前 = 最初の、1番の、真っ先の、第1の
「al=all=全部」 + 「most=最上級」 = almost
→ ほとんど全部 = たいがい、ほとんど

□□ 2004
stray 「捨てられて宿無しの犬」

[6][stréi ストレイ]

□□ 2005
intricate 「いい鳥！ きっと 複雑な 味付け」

[8][intri:kít イントリキト]

□□ 2006
daring 「うちのダーリン 大胆な 体位」

[5][deəriŋ デアリング]

□□ 2007
mighty 「ネジ巻いて 強力な 推進力」

[4][maíti マイティ]

□□ 2008
barren 「不正もバレんならOKと不毛の日本」

[8][bærən バレン]

□□ 2009
ultraviolet 「紫色(violet)を越えている(uv) 紫外線」

[10][ʌltrəváiələt ウルトラバイオレット]

□□ 2010
intrigue 「犬、鳥、ぐっさんに 興味を持たせる」

[10][intri:g イントリーグ]

intriguing 「」

[10][intri:giŋ イントリーギング]
説 intrigue も「させる系の他動詞」で interest と同じだから、intriguing は interesting だと考えれば良い。

□□ 2011
merry 「メリーさんの 陽気な 間男」

[2][méri メリ]

□□ 2012
synthetic 「合成繊維が新鮮ってか?!」
[9][sinθetik シンセティック]

□□ 2013
perpetual 「パパ(が)地位やる! 永続する地位を」
[7][pəpétʃuəl パーペチュアル]

□□ 2014
integral 「インテグラルは数学には不可欠な積分記号」
「」
[8][integrəl インテグラル]

□□ 2015
hybrid 「ハイブリッド・カーはガソリンと電気の複合型で一種の雑種」
[8][háibrid ハイブリッド]

□□ 2016
spinal 「スパイ(が)なる脊髄の病気」
[11][spáinl スパインル]

形容詞 副詞

□□ 2017
drastic 「でりや素敵な劇薬」 ←これは名古屋弁!
[7][dræstikəli ドラスティック]
drastically その副詞形で「劇的に~する」
[15][dræstikəli ドラスティカリ]

□□ 2018
abruptly 「食べ過ぎると不意に油太り」
[15][əbráptli アブラプトリ]

□□ 2019
conversely 「逆にコンバース、リーボックが好き」
「」
[9][kənvə:rsli カンバーズリ]

□□ 2020
predominantly 「やっぱりダメなの? 取りました! 大部分のヘソのごま」
「」
[10][pridáminəntli プリダミナントリ]

□□ 2021
lest 「休憩(rest)をとらないようにしよう(lest)」
[6][lést レスト]